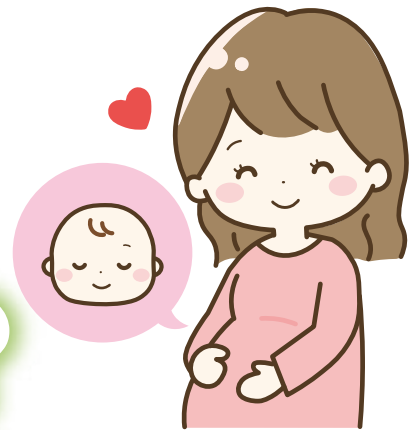


HTLV-1

(ヒトT細胞白血病ウイルス-1型)

をご存知ですか？



- ♡ HTLV-1は、成人T細胞白血病(ATL)やHTLV-1関連脊髄症(HAM)の原因となるウイルスです。
- ♡ お母さんがこのウイルスをもっていると、母乳を介するなどして、赤ちゃんがHTLV-1に感染する可能性があります。
- ♡ 授乳方法を工夫して赤ちゃんへの感染の可能性を低くすることができます。

妊婦健診の血液検査で調べることができます。

この検査で陰性であれば感染はしていません。陽性の場合はこの検査だけでは本当に感染しているか確定できないので、精密検査を受ける必要があります。

HTLV-1に感染すると

感染してもほとんどの人はウイルスによる病気を発症することなく一生を過ごしますが、ごく一部の人は、感染してから40年以上経過した後に、成人T細胞白血病(ATL)という病気になることがあります。

またATLよりもさらにまれに、HTLV-1関連脊髄症(HAM)という神経の病気になることもあります。

赤ちゃんへの感染を防ぐためには

赤ちゃんへの主な感染の原因は、母乳と言われています。

感染予防のため、原則としてミルク(人工栄養)をおすすめしますが、ご自身やご家族の希望を伝えた上で、主治医の先生と相談してください。

妊娠がわかったら…

早めにお住いの市町村へ「妊娠届」を提出して母子健康手帳の交付とともに、「妊婦健康診査受診票」の発行を受けましょう。妊婦健診にかかる費用を公費で補助する制度を利用できます。

すこやかな妊娠と出産のために 妊婦健診を受けましょう

妊婦健診は、お母さんや赤ちゃんの健康状態を定期的に確認するために行うものです。定められた適切な時期に必要な検査を受けることが大切です。

体重・血圧測定や尿検査、超音波検査などのほか、特に赤ちゃんの健康に影響をおよぼすことのある感染症についても調べます。

結果は、妊娠中だけでなく、お母さん自身の健康管理にも役立ちます。

●妊婦健診で調べる主な感染症

◆B型肝炎ウイルス

赤ちゃんに感染しても多くは無症状ですが、まれに乳児期に重い肝炎を起こすことがあります。将来、肝炎、肝硬変、肝がんになることもあります。

◆C型肝炎ウイルス

赤ちゃんに感染しても多くは無症状ですが、将来、肝炎、肝硬変、肝がんになることもあります。

◆ヒト免疫不全ウイルス(HIV)

赤ちゃんに感染して、進行するとエイズ(後天性免疫不全症候群)を発症します。

◆梅毒

赤ちゃんの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒を起こすことがあります。

◆風疹ウイルス

お母さんが妊娠中に初めて風疹ウイルスに感染した場合、胎内で赤ちゃんに感染して、聴力障害、視力障害、先天性心疾患などの症状(先天性風疹症候群)を起こすことがあります。

◆ヒトT細胞白血病ウイルス-1型(HTLV-1)

赤ちゃんに感染しても多くは無症状です。一部の人々が、ATL(白血病の一種、中高年以降)やHAM(神経疾患)を発症します。

◆性器クラミジア

赤ちゃんに結膜炎や肺炎を起こすことがあります。

◆B群溶血性レンサ球菌(GBS)

赤ちゃんに肺炎、髄膜炎、敗血症などの重症感染症を起こすことがあります。

妊娠・出産に関すること、月経に関すること、婦人科疾患や更年期障害に関することなど、ライフステージの各段階で女性が抱える健康課題やそれに関連する不安や悩みについて、ご相談ください。

詳しくは…

秋田県女性健康支援センター

検索

